

## 海を照らす灯台のなかまたち (14)

～伊予青島灯台 (いよあおしまとうだい)～

～猫の楽園～

長浜港の沖合 13.5 キロに位置する有人島、平地が少なく、わずかな平地に集落が密集している。



急斜面に家が建ち並ぶが廃屋が多い。

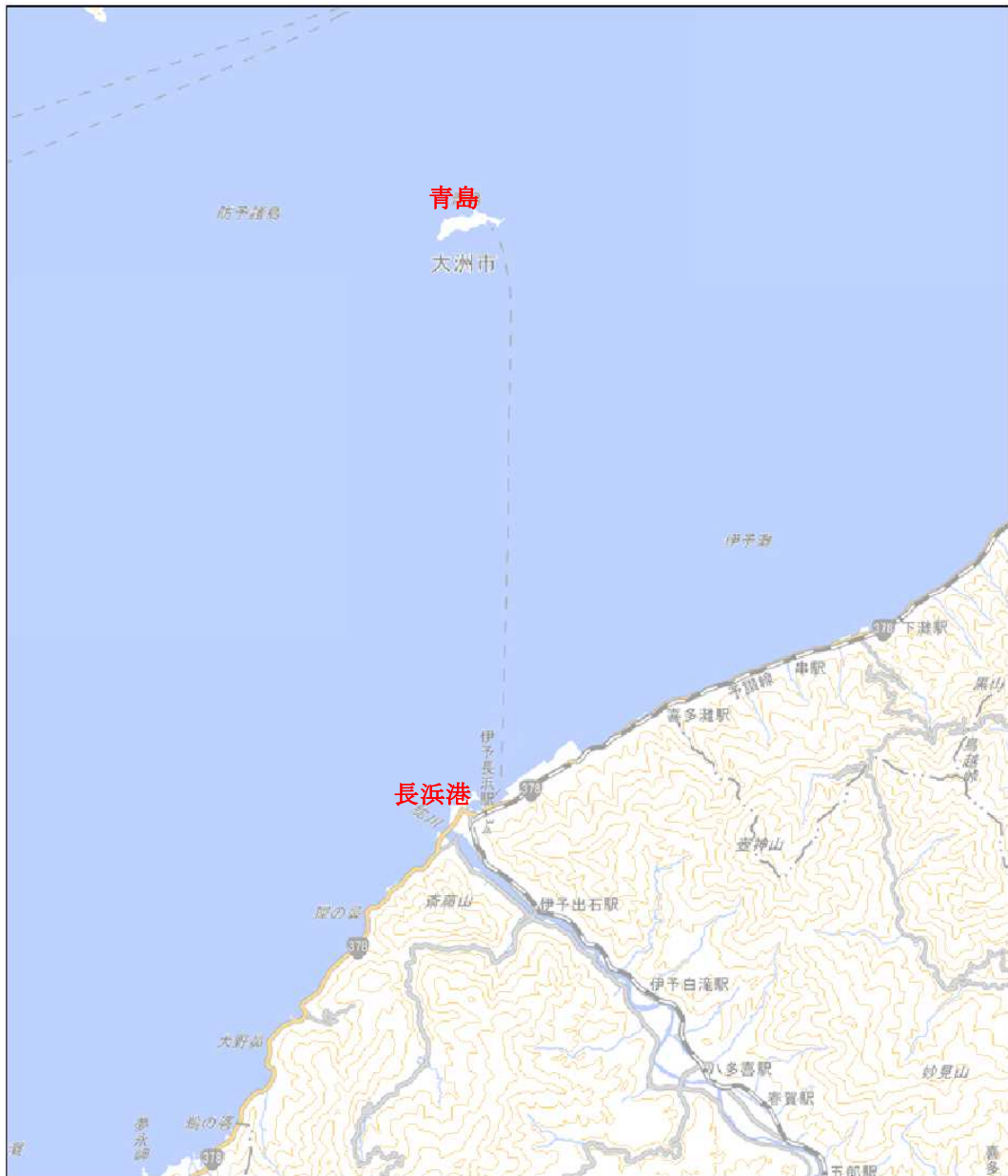
廃校となった小学校と中学校の建物も丘の上にある。

もともとは無人島で 1617 年大洲藩の馬の牧場となり、当時は「馬島」だった。

【青島】



## 【青島周辺図】



寛永年間に鰯の好漁場であることが判り、1639 年、播州坂越村（現在の兵庫県赤穂市坂越）より「与七郎（後に赤越九郎左衛門に改名）」を名乗る漁師が一族郎党 16 戸を引き連れて移り住んだといわれている。

この赤穂からの移住者によって開かれた歴史から、赤穂四十七士

の装束で舞う、県指定の無形民俗文化財「青島の盆踊り」が継承されてきたが、島の人口減少で継承が難しくなり長浜自治会が盆踊りの保存、伝承や青島の魅力発信に協力している。

島は平地が少なく、農業はあまり発展せず、産業は一本釣りや建網などの漁業が中心であり、「ひじき」は島の特産品となっている。

最盛期の人口は1942年の889人、以降減少が続いており、1981年には102人（この時点で25才以下は皆無）、2012年16人、2019年2月には3世帯6人となっている。

この島には自動車はもちろん、自動二輪車、自転車まで一台もない、宿泊施設、食堂、商店、自動販売機もない。

学校は、長浜小学校青島分校が1976年廃校、青島中学校は1966年に長浜中学校に統合。

島では、島民の数が50名を割った2000年頃から、逆に猫の数が増え始めたという。

2013年9月に猫の生態を撮影した写真がブログなどに掲載されたことで一躍注目を集め、猫好きの観光客が猫目当てに続々と訪れるようになり「猫の楽園」とも評されている。

島民は高齢者ばかりで、島民だけで多数の猫の世話は限界となっ

ており、狭い土地のため猫同士の近親交配により、生まれつき障害をもつ子猫が生まれるなど問題が生じてきている。

不妊、去勢手術を行ってきたが手術漏れもあり、再繁殖の恐れが懸念され、追加手術は喫緊の課題となっています。

青島の歴史や現状になってしまいましたが、肝心の「伊予青島灯台」は、集落から 20 分程と言われていますが、行くのは難しいと思います。

#### ○伊予青島灯台要項

所在地 愛媛県大洲市（青島）

塗色・構造 白色、塔形

灯 質 群閃白光 毎 8 秒 2 閃光

光達距離 12 海里（22.2km）

高 さ 地上から構造物の頂部まで 13.0m

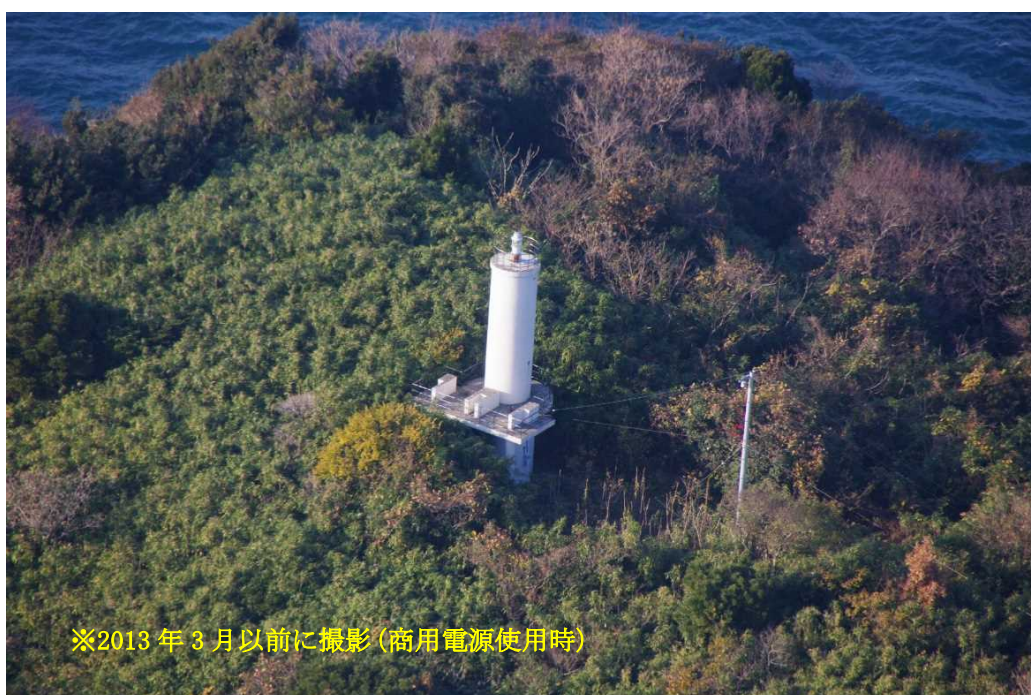
平均水面上から灯火まで 103.0m

地上から灯火まで 12.25m

点灯年月日 昭和 45 年 3 月 24 日

★「大八車」No.228（令和3年1月10日発行）掲載分

○伊予青島灯台及び付近





灯室内



高光度LED灯器



太陽電池パネル

※2013年3月にLED化